

2015年9月1日 発行

古着伝言板



FRN

〒232-0017

横浜市南区宿町 2-40 大和ビル 101

Tel.045-710-6507

Fax. 045-710-6508

ホームページ：<http://www.fiber.jp>

発行：ファイバーリサイクルネットワーク

「布」が繋いだ活動をこれからも続けて行きます！

今年もあっという間に八月を迎えた気がします。それでも中身の濃い前半の活動でした。地区の回収量としては伸び悩みが続いていますが、地区ごとに回収のチラシ配布や拠点探しの声掛けを行っています。そして、川崎市宮前地区では2拠点、横浜市南地区では男女共同参画センター横浜南（通称：フォーラム南太田）の1拠点が、7月の回収から参加しました。また開成町古民家「紋蔵」は10月から拠点回収を始めます。

今までFRN事務所では外部の方を対象に物を販売する事が出来ませんでした。今回活動の趣旨を大和ビルオーナーにご理解頂き、8月から事務所販売をスタートしました。販売する物は勿論、着物、帯などですが、これからはFRNメンバーが作った、リメイク品なども並べ内容を充実させて行きます。

昨年12月、雑誌「いきいき」と「明日の友」に活動が掲載されてからは、全国からの問い合わせも多くなりました。古布や洋服類はナカノ俵へ、和服類は事務所へ。全国から送られてくる和服類が事務所と倉庫に溢れ、仕分けと値付けに嬉しい悲鳴が続いています。

FRN報告会では雑誌「いきいき」の担当の方にFRNの活動を取り上げる事になったいきさつを講演して頂き、中野会長からはこれからも活動を繋げていくための大切なお話を頂きました。

市民活動が約四半世紀もの間続けられているのは、「布」が繋いだ多く皆さんの支えがあるからです。「きものフェア」きもの実行委員の皆さんが運営委員となり会議が充実してきました。各地区連絡会担当の運営委員の方（代理可）も会議に積極的に出席し、これからのFRNの運営について意見を出して頂きたいと思います。

「布」が繋いだ私たちの市民活動を、更に楽しく元気に続けて行きたいと思い、平成27年度「循環型社会形成推進功労者賞」に自薦しました所、受賞する事になりました。

これからも、「布」が繋いだ私たちの市民活動を、更に続けて行ってもらえる形作りを工夫と柔軟な気持ちで皆さんと進めていきます。

赤岡 清子



◎山口県立宇部高等学校生徒来所 3月25日（水）4名

テーマ：環境先進都市「うべ」をめざして

～宇部市の3Rを考える～

◎明治学院大学「1Day for others」学生来所

6月7日（日）8名





2014年2月28日(土) 場所まいたエコサロン

いきいきは「50代からの生きかた、暮らしかた応援雑誌」で本屋さんには置いていない直販の雑誌で、読者は20万人程です。

FRNさんを取り上げたのは2014年12月号になるのですが、これは11/10日にお届けしていて、2011年頃から12月号には必ず掃除、片付けの特集を組んでいます。

皆さん「もったいない」と思う気持ちを持って家の片付けに取り組んでいらっしゃると思うのですが、その気持ちをどこかやわらげるといいますか、「もったいない」と思う物をまた誰かに活かしてもらいたいと言う気持ちが叶えられるような寄付先、送り先を毎年ご紹介させていただいて来ました。

その中で一番反響があったのが2011年の東日本大震災の時の物資支援と言う形だったのですが、皆さん社会貢献をしたいと言う気持ちで送られる事がその時によくわかりました。そういう社会貢献をしながら、「もったいない」の気持ちを生かせる場所と言う事で探しました所、FRNさんに辿り着いたという訳なのです。

「いきいき」で活動を取り上げる時に、どのような活動をしているか、安心できるかどうか等が判断基準になっています。そこで神奈川県「地球環境賞」の受賞や、「いきいき」の読者と同じ年代の方々が活躍されている事が分かり取り上げさせていただく事になりました。

「着物を送ったところ温かい返信が来ました」との読者の感想を見かけました。一昨年は「元払い」の表現をしたところ、「元払い」って「着払い」ではないのですかとクレームがたくさん入ってきて・・・今回はご協力の結果クレームなどはなく、無事にやり取りされて「悪い方のお知らせ」が来ないので安心してあります。また今でも「あのページはいつの号に載っていたのですか」の問い合わせがあります。

断捨離という言葉が流行していて子供達のためにも家を片付けたいと思われるかもしれないのですが、スッキリした生活を好まれる時代の流れがあるのかと思いますので、片付けたい気持ちと、伝えられる物を捨ててはいけないという気持ちが強い世代の方々に向けて、良い団体さんを紹介できたと私どもは思っています。

「いきいき」編集部 竹上 久恵氏

FRNの新たな回収拠点

古民家ガーデン「紋蔵」

私のリサイクル活動歴は、30年になります。常に心掛けてきたのは人との出会いを大切にして、ハンディを持つ人々とも地域で共に歩み、創る視点を持つことです。

平成25年秋に旭区で出会った障害者が働く、どんぐりレストラン「レ・ドア」の平賀国雄さんとの出会いから、開成町の瀬戸屋敷を知りました。又、そのすぐそばの築150年の古民家「紋蔵」が、平成26年3月よりワークショップ、イベントを企画することになり、旭区と茅ヶ崎の地区連絡会が協力して出店。販売品はFRNより、着物・帯・はぎれ・小物を委託。展示品としては、志澤愛用のリメイク品を30点貸出しました。

FRNの活動の紹介、着物フェアの宣伝もし、開成町の人々や、雛祭り・あじさい祭り・コスプレ大会などの観光に全国から訪れる方とのコミュニケーションを心がけました。地域の方々にも大変好評で、平成27年4月よりリメイク品や着物を展示できるようになりました。開成町でのFRNの活動を知った人々が、「リサイクル着物フェア」にも来場いただき本当に嬉しいことです。今、準備中ですが10月より「紋蔵」は、毎月第2の木・金がFRNの回収日になります。毎月第2の土曜日は、藍染め教室も開きます。

古民家「紋蔵」の中では、帯や着物で製作した簡単にできる、タペストリー・バック・クッションなど素敵なりメイク品を展示して「あなたも作ってみませんか？」とPRしていきます。

ぜひ！素晴らしい自然のあふれる開成町の「紋蔵」へお出かけください。旭地区連絡会 志澤 希久子

昨年末「いきいき」「明日の友」の2誌に掲載後、全国からたくさんの荷物が送られて来るようになった事は前号でご紹介しました。6月末までに累計3800*に達しています。数年前に倉庫のスペースが倍になりましたが、値段を付け分類した着物の包みが床と壁面を覆い尽くしています。

女絹着物に関しては持ち込みの90%は掲載後に送られて来た物にしました。以前は先入れ先出し(古い物を先に出す)を原則にしていたのですが、倉庫で着物の包みは段々と積み重なって下方に負荷が加わりプレスされて行きます、きもの担当で相談し、女絹着物に関しては最近送られてきたもの(しわの付く前のきれいな物)を出しています。

また春フェアでは帯の担当が写真のようなバックを手作りし販売しました。帯は着物に比べ圧倒的に数が少ないので、帯そのものとして売れる物はもちろんそのまま出しています。FRNは提案型なので「あの帯からこのバックが!」と驚き、出来上がりの素晴らしさに、これからも楽しみにしています。

はぎれ・小物は非常に種類が多く細かい物もあります。これもまたたくさん送られて来ます。これを丹念に分類し値段を付ける地道な作業を頑張っています。

寄付品の事情も変わって来ているように思います。着物を着ない世代の物なので新しく(?)きれいで「もったいない」と言うより「思い切りがいい」に近いです。巷にリサイクル店が乱立するのも、出す側の意識と言うより、物に対する考え方が変わって来たのかな?と送られてきたものを見て感じています。しかし着物は日本の伝統文化です。誰かに受け継いで行ってもらいたいとの思いで送って下さるのです。その気持ちを大切に、これからも作業をして行きたいと思っています。 室田 美和子



夏フェア同時開催講習会
「ループのブローチ」



春フェアで募集した和布講習会
「鯉のぼり」



帯バック

夏のリサイクルきものフェア

2015年7月2日(木)3日(金) 男女共同参画センター横浜南
(フォーラム南太田)

10回を迎えた夏フェアはあいにく雨の開催でした。天候に関らずたくさんの方の参加で感謝の一言です。フェアに携わる人数も最小限にし個々の担当の力が発揮出来たと思います。

個人リメイク品や、提案型FRN仕様のリメイク品の数量も増えて充実しつつある様に感じます。夏フェアは2日間の開催なので、自分自身年々、体力、気力に限界を今回は更に感じています。開催日の短縮等、課題も全員で検討の時に来ていると思います。

たくさんの方の出番を待っているきもの達についてアイデアと知恵を出し合って考える必要に迫られていると感じています。

鈴木 芳子

優しさで紡ぎ繋げるリサイクルの輪

第34回

リサイクルきものフェア

ファイバーリサイクルネットワークの回収と、全国から送られてくる寄付の着物や帯、ハギレ、和装小物、リメイク品などを販売します。たくさんの方の来場お待ちしております。

日時 10/23 2015 (金) 10時~15時30分 (入場は15:00まで)

会場 かながわ県民センター 1F展示場

◎当日は着物の寄付をお受けいたします。収益金一部は、国内外の支援に使わせていただきます。

注意事項

- 混雑が予想されますので、当日は入場整理券を配布し入場制限させていただきます。
- キャンセル付買い物カゴは、会場内に持ち込みできませんのでご了承ください。

次回会場開催:「リサイクル着物フェア」2016年4月19日(火)を予定しています

主催 ファイバーリサイクルネットワーク
〒232-0017 横浜南地区センター404室 101 ホームページ fiber 検索



これからもファイバーリサイクルを続けて行くために！



「続ける」という事は本当に大変です。1年1年歳を取っていきます。難しいけれど続けるためには自分だけが続けるのではなく、続けて行ってもらえるような形を作っていく事が大切になります。

FRNさんとも立ち上げの時から数えるともう25年の付き合いになります。振り返れば長いとか短いとかありますが、その間にどういう事が起こったのかを振り返る事が重要です。その振り返りを次の世代の人達に、時間を貯めた貯金として渡して行くのです。「時間と言う問題をしっかり貯める事、貯める手段、引き継いで行き歴史と記録を残して行く事」が大切だと思います。

私達が扱っている衣料品は、生きていく為の3要素、衣食住の衣です。ここにFRNがあるので、ただ物があるか思いがあると言うだけではなく、繋いで行く、これは間違いなく文化だと思うのです。リサイクルはもう文化なのであって、この文化をどうやって自分達の中で表現するかの問題になってきます。それが今サロンの活動、きものフェアの活動、情報発信など、色々な事が起こって来ています。是非それをもっと意識して下さい。しかしこの「続けるため」には残念な事にお金がいります。

日本人はお金のお話をするといじましい話になって、違う！と拒否しがちです。しかしこれは物事の必然で、必ず裏と表があり、どちらが表でどちらが裏かは別の話で、両方あってひとつなのです。

そして是非続けて行くことの大切さ、衣料の持っている役割、自分達のやっている活動の目的などをもう一度よく考えて欲しいと思います。

10年20年続くとどうしても守りに入ってしまいます。「守りに入る」と言う事は、教えられる心地良さにドブプリ浸かってしまう事にもなります。「守る」のではなく、「大きく広げていく」ともまた違うのですが、「続けて行く」にはどうすればいいのか。無理に広げてひっくり返っても仕方ありません。無理に広げるのではなく、「続ける」事がどういうことなのか、やはり活動の発想、その基本的な発想が大事だと思います。

皆さんが和気あいあいとしていて心地の良いのは最高な事で、この雰囲気を持って「輪」を広げて行けば、そこに寄ってくる新しい人達が「あれ何だろう？」と関心を持ってくれ、そういう何かをドンドン出して行けば、自然と無理なく広がって行くのではないかと感じています。

ナカノ(株) 中野 聰恭

ファイバーリサイクル活動は力強く続いている



1989年「リサイクルって本当に役立つの？」というエコフォーラムを開催しそこから和布を中心にしたリサイクル活動を始めました。当初事務所は「まちづくり情報センター・アリス」の事務所におかせて頂きました。というより、アリスセンターの最初の仕事ということでした。ファイバーリサイクルということが、こんなに市民の欲していたことだということで、アリスセンターはところ狭しと古布、古着で埋まってしまいました。そこで現在の和布ビルに2000年3月に移ってきました。即ち独立したという事です。当初、世間は環境問題が盛んになっていました。時が移り時代も変わって、多くの環境問題を取り上げた団体は活動を終わらせました。布類だけを扱った「ファイバーリサイクルネットワーク」は強い意志と力をもってまだ続けています。しかもますます盛んに、です。この活動がどんなに必要なものであるかの証だと思います。私たちもその必要を満たすためにこれからも楽しく活動して行きましょう。

服部 孝子

ナカノ(株)
金沢工場
新築中で～す

中野会長や、服部前代表の言葉は、25年続いたFRNをこれからも続けて行くための暖かいエールと受け止めます。

編集後記

ファイバーリサイクルネットワーク (FRN) は法人格を取っていませんが NPO 団体です。
行政や企業からの援助などは受けず、経済的に自立している団体です。